

# 東三河ジオパーク構想における取り組み

— 持続可能な地域づくりをめざして —

東三河ジオパーク構想推進準備会 (加藤千茶子・西村拓真・加藤貞亨)

## 【東三河ジオパーク構想の位置づけと経緯】

東三河ジオパーク構想は『地域が一体となって自立した東三河をつくる』ことを基本理念とし、愛知県の東三河8市町村、経済団体、大学等で構成する「東三河ビジョン協議会」が策定した「東三河振興ビジョン」に位置付けられ、「東三河ジオパーク構想推進準備会」として活動中です。

- 2013年 東三河地域の自然史系博物館等を中心にジオパーク構想の機運が高まる
- 2014年 「東三河振興ビジョン」に「東三河ジオパーク構想」が位置づけられる
- 2016年 8市町村を構成団体とする「東三河ジオパーク構想推進準備会(以下準備会)」発足、JGNに準会員として加盟
- 2017年 ジオサイト候補地の現況調査を各自治体の教育担当者で行い、各市町村で現状を把握した。アンケート調査等を行いつつ議論を重ね、テーマやジオストーリーについて、準備会として見解をまとめた。「東三河振興ビジョン」に「東三河ジオパーク構想」が位置づけられる
- 2019年 2年かけて養成し、筆記・現地ガイド試験に合格したジオガイド1期生誕生
- 2020年 東三河ジオガイド協会発足。本格的なジオガイド活動の開始に向け準備中

## 【地域でどんな活動をしているの?】

各自治体の企画部門、博物館を中心とする教育部門、各部門からなる「部会」を軸にジオパーク活動を展開中です。シンポジウムやジオツアー、企画展、ワークショップ、出前授業といった単発・短期事業を継続して開催し、リピーターを増やしたり、地域の高校生などが興味を示し活動に参加するなど、一定の成果を上げつつあります。また、継続的なジオサイト(候補地)の保全のため、各市町村で4年毎に現況調査を行う仕組みを始めています。今後、地域に根ざした活動として定着していくためには、「地域の協力者」を増やす必要があります。その一つとして、昨年発足した「東三河ジオガイド協会」も、地域との橋渡しを担う役割が期待されています。

## 【位置】

東三河地域は愛知県東部に位置し、豊橋市、新城市、蒲郡市、田原市、設楽町、東栄町、設楽町、豊根村の8市町村で構成されています。面積は県の約1/3を占め、約1,720km<sup>2</sup>。北は長野県、東は静岡県に接しています。



### ①シンポジウム

ジオパークについて市民への周知を目的に開催。開催地：8市町村で持ち回り開催。午後は地域やシンポジウムのテーマに沿ったミニジオツアーを開催している。



### ②企画展



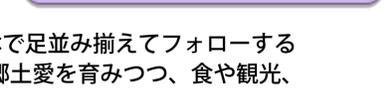
### ③ジオツアー

ジオの魅力伝えるため、地域の博物館や推進準備会によるモニターツアーを開催。



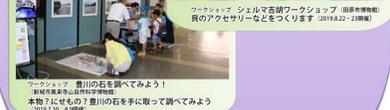
### ④ジオガイド養成

2015年に豊橋市で試験的に養成講座を開催。2016～18年にかけ、準備会主催で養成講座(座学)と筆記試験、合格者を対象に認定講座(フィールド)とガイド試験を行い、ジオガイドが誕生。2020年には「東三河ジオガイド協会」が発足した。



### ⑤その他

広報活動の一環として、パンフレットやポスターなどを作成したり、博物館、市民団体や高校生が主体となるワークショップの開催に協力しています。またジオサイト候補地や先行ジオパークの調査も行っています。



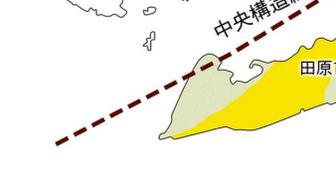
東三河地域は、広域かつ複数自治体から構成され、その活動は地域の博物館(複数)を中心として、8市町村全体で足並み揃えてフォローするボトムアップ型の活動を行っています。8市町村持ち回りでのジオパーク活動を通じて、地域の新たな魅力発掘し、郷土愛を育みつつ、食や観光、防災にジオの切り口を活用するアイデアを発信し続けることで、持続可能な地域づくりへの貢献をめざしています。

## 【東三河の特徴】

キーワードは **中央構造線**  
中央構造線の湾曲を特色とする地質構造

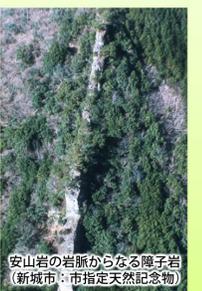
### ①中央構造線がつくる地形・地質

中央構造線を境に、成因が異なる岩石が接しています。その結果、中央構造線がつくる谷や、異なる基盤岩からなる島々を三河湾で見ることができます。



### ②奥三河

新第三紀中新世(約1,800~1,300万年前頃)に水底に堆積した化石を含む岩石類や、大規模な火山活動がつくった美しい景観が見られます。



### ③渥美半島

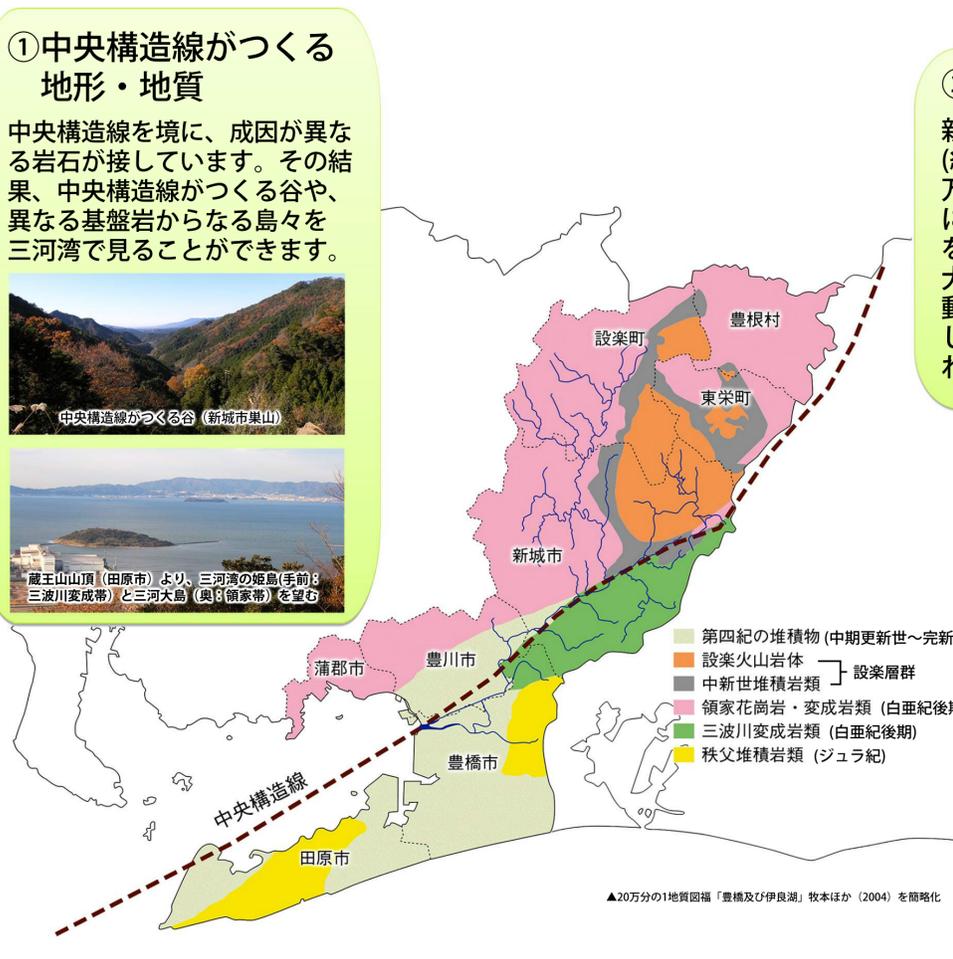
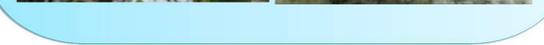
太平洋に面した海岸には、波に削られてできた海食崖が田原市高松から県境まで続いています。その崖では約2億年前の海底に堆積した岩石や、海進・海退により堆積した地層(約70~30万年前)が見られます。



東三河は、中央構造線沿いに南北をつなぐ伊那街道や別所街道、東西をつなぐ東海道や伊勢街道といった、山・川・海の道で人々が行きかう交差点で、時に戦場ともなりました。中世から近世への歴史の転換点となった「長篠・設楽原の戦い」の展開にも、中央構造線が生み出した地形などが影響を与えています。



また様々な成り立ちからなる大地が生む、多様な自然環境により、固有の動植物が生息しています。



▲20万分の1地質図幅「豊橋及び伊良湖」牧本ほか(2004)を簡略化